

大村市立旭が丘小学校 校長 赤木 章二

教育週間終了！ ご参観ありがとうございました！

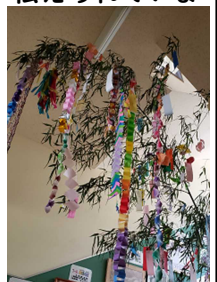
「旭っ子の心を見つめる教育週間」が終了しました。たくさんの保護者の皆さん、地域の方々にご来校いただき、子どもたちの様子を見ていただきました。子どもたちの様子はいかがだったでしょうか。6月29日（土）の土曜参観では、道德の授業を全学級で公開しました。道德の授業を通して、命の大切さや思いやりについて考えました。また、メディア講演会では、長崎県メディア安全指導員の中浦宏樹様を講師としてお招きし、『親子で考えるメディアとの上手な付き合い方について』と題して講演をしていただきました。低学年、中学年、高学年の3回に分けて、学年に応じた内容を準備していただき、とても分かりやすく充実した時間となりました。この講演会を通して子どもたちは、間違ったメディアの使い方をすると生活習慣が崩れたり、体調や脳の働き、視力や姿勢に悪影響をあたえたり、取り返しのつかない状況を生み出すことを学びました。また、直接会って会話をすることに比べて、SNSでのやりとりでは、誤解をしてしまうことが多く、喧嘩になったり、仲間外しやいじめに繋がったりする危険性が高まることも知りました。メディアはとても便利だけれど、使い方次第では危険がいっぱいであることを子どもたちは学びました。最後に講師の先生がおっしゃっていた、「赤信号で横断歩道を渡るとどうなりますか？」の問いから「メディアの使い方ルールを守らないと命に関わることになる」ということをしっかりと心に留めていた子どもたちです。今回、子どもたちと一緒にたくさんの保護者の方にメディア講演会に参加していただき、大変ありがたく思っています。講演後に、「メディアの危険性について親子で学ぶ機会を作ってくださってありがとうございます。」「スマホやゲームが脳や体に与える影響について知ることができました。親子で使い方のルールづくりをしたいです。」「これからもメディアについて学ぶ機会を続けてほしいです。」などの感想をいただきました。今後も子どもたちがメディアと上手に関わっていけるように、学校・家庭・地域がしっかりと連携しながら、それぞれの役割を果たしてまいりましょう。



☆明後日は七夕です！☆

皆さんもご存じのとおり、7月7日は七夕です。七夕と言えば、織姫と彦星の伝説がよく知られています。織姫と彦星が年に一度、天の川を渡って会える日が7月7日だというお話として言い伝えられていますね。では、なぜ七夕と書いて「たなばた」と読むのでしょうか。調べてみると、諸説ありますが、七夕は五節句の一つで「しちせき」と呼ばれます。その行事が行われる時季は旧暦のお盆頃にあたります。日本で古くから行われていたお盆の風習に、女性が着物を織ってお供えをするというものがあります。その機織りに選ばれた女性が「棚機つ女（たなばたつめ）」と呼ばれたことと、織姫伝説が重ね合わせられ、七夕を「たなばた」と読むようになったそうです。

さて、今年は織姫と彦星は無事に出会うことができるでしょうか。織姫星（こと座のベガ）、彦星（わし座のアルタイル）に白鳥座のデネブを加えた3つの星は「夏の大三角」と呼ばれ、夜空に一際明るく輝いています。4年生の理科で学習しますので、子どもたちと一緒に星空を眺めてみるのもいいですね。右の写真は、放課後子ども教室の子どもたちが作った七夕飾りです。「世界が平和になりますように」「友達がいっぱいできますように」「ウルトラマンに会えますように」「鉄棒が上手になりますように」など、様々な願いごとが書かれていました。みんなの願いが叶うといいですね。



放課後子ども教室で作った七夕飾り